「トピックス」　令和８（２０２６）年度

第２回　「伝統と創造の響き」

ー安芸太田町「神楽よさこい」が紡ぐ地域の未来ー

５月５日、「ひろしまフラワーフェスティバル」において、安芸太田町が誇る「安芸太田 神楽よさこい」が披露されました。「パフォーマンスパレード」が繰り広げられた「平和大通り」と「きんさい YOSAKOI ステージ」の舞台となったカーネーションステージ、会場を埋め尽くす多くの来場者の前で、町の文化の息づかいが力強く表現された姿、国境と世代を超えた熱い声援は、私たちの胸に鮮やかに残っています。

「神楽よさこい」は、単なる創作ダンスではありません。それは、古くからこの地に受け継がれてきた神楽の厳かな所作に、よさこいの明るく躍動的な動きを融合させた、町独自の文化の結晶です。伝統を重んじながらも、時代に合わせて新しい表現を取り入れ、地域の宝を次世代へつなごうとする熱い姿勢が込められています。

「神楽よさこい」が誕生した背景には、町の深い歴史と健康への願いがありました。安芸太田町は、無形文化財をはじめとする多くの神楽団が活動する「神楽の宝庫」です。平成 24（2012）年、町の健康運動クラブ連絡協議会が「広島健民コンクール」で最優秀賞を受賞し、「健康大使」に任命されたことを機に、ひろしまフラワーフェスティバルの「きんさい YOSAKOI」への参加が決まりました。当時、県内初の「森林セラピー®基地」として認定を受けた町の魅力を全国に発信しようという熱意、そして平成 26 年（2014）年の「健康のまち」宣言へとつながる健康づくりの機運が、この唯一無二の演舞を生んだのです。

しかし、この独自の演舞が完成するまでには、地域の伝統を未来へつなごうとする人々の並々ならぬ努力と創意工夫がありました。楽曲は地元の津浪神楽団に依頼し、名高い演目「塵倫（じんりん）」を、よさこいの規定である４分 30 秒に凝縮しました。通常 30 分以上ある囃子（はやし）を調整するため、奏者もスタッフも、どれほどの時間を費やしたか記憶にないほどの試行錯誤を

繰り返したといいます。また、振り付けは健康運動指導士の先生がされています。楽譜のない神楽のリズムを解析して振りを作り上げる苦労の末、全身の筋力を鍛え、バランス能力を養う有酸素運動としての価値も備わった演舞が完成したのです。こうして平成 25（2013 年）２月には、楽曲と楽舞の双方が著作権登録されるに至りました。

教育の視点から見ても、「神楽よさこい」には計り知れない価値があります。子どもたちが地域の文化に直接触れ、自分たちの町の魅力を肌で感じることは、学びの意欲や自己肯定感を育む原動力となります。地域の大人たちが伝統を守りつつ、真剣に新しい価値を生み出そうと挑戦する姿は、子どもたちにとって「自分も何かに挑戦したい」という前向きな心を育む最高の手本となるでしょう。

「鬼」が加わることによる更なる「神楽」との融合、ステージでの立位と座位の「舞（健康体操）」のコラボと、安芸太田の「神楽よさこい」はますます進化を続けます。

この日、「ひろしまフラワーフェスティバル」で発信された安芸太田町の心。それは、伝統と創造が共存する、これからの時代に求められる力そのものです。安芸太田町教育委員会では、この素晴らしい文化の土壌を大切に守り、子どもたちが自らの故郷に誇りを持って成長していけるよう、地域の皆さまとともに歩んでまいります。ご理解とご支援をよろしくお願いします。

令和８年５月

安芸太田町教育委員会　教育長　大野　正人